

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度のみつけそよ風のスローガンとして「(入居者にとって)いいこと・楽しいことをしよう」 うめの丘ユニットスローガン「いいじゃないか・うめの丘」		月のレクリエーションをきちんと実施できるよう体制づくり、地域も交えて行っていくことに重点を置いた。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の時に理念を伝え理解してもらえるようにしている。 また、事務所内に掲示。 ユニットスローガンはユニット内に掲示している。		日々のミーティング、ケアカンファレンス時などでも再度確認している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月のユニット新聞、運営推進会議などで説明している。		運営推進会議でも更に理解していただけるようにしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の住民とのすれ違い時は、挨拶を行ったり、暖かい日中などは玄関で一緒にお茶を飲んでいただいたり、している。		行事を行う時は、お知らせを配布している。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアと交流する機会を設けて、おやつ作りなどを行っている。 地域の公民館の講座や催し物に参加して交流を深めている。		更に行事や文化祭などにも参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の古着を集めている団体より、タオルやシーツを分けていただき雑巾を縫って、地域やボランティアの方に還元している。		職員や地域の話し合いで出た、些細なことも少しずつ実現していけるように具体的にしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の指摘事項を会議で話し合い、改善に取り組んでいる。		それぞれ課題に沿って、会議やカンファレンス時にとる組む為の計画を話しあっている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組んでいる内容や状況を報告し話し合いを行っている。		来年度の会議の方法など再度検討していく予定。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネージャーの月1回の会議やその他の情報がある場合には、連絡を頂いたり相談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員には、社外研修などの機会では説明が出来ていない。		学ぶ機会を提供していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル整備されている。 職員へ日々の中で注意、説明し虐待防止に努めている。		学ぶ機会を設けておらず、提供していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前から入居時の説明と不安や疑問点に対する対応や説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>言葉や態度などから、個別に居室にて話を聞いたり、話やすい環境になるようにしている。また、そこで話した内容を記録しプランやケアカンファレンスにて検討している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、居室の担当者から報告しその他の事項では、ユニット新聞にてお知らせしている。緊急時や面会時にもその都度、現在の様子を職員より、報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>アンケート作成して、それを元に検討を行った。面会時にも感想などを記入していただけるように、欄を設けている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日勤者のみでのミーティングを行い、情報の共有を図れるようにしている。そこで解決できなかった課題などはリーダー・サブより計画作成者へ、又はリーダー・サブ会議、全体会議などで再度検討している。</p>	<p>提案を実現できるようにしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>プランや行事、希望にあわせて勤務を調整したり、日中の職員で話し合ったり、管理者が協力したりしながらその都度調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット職員を固定化して、顔なじみの職員によるケアを心がけている。やむを得ず変わる場合は、職員同士の引継ぎを行うようにしたり、利用者へ説明をし紹介をして馴染んでいただけるようにしている。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>入社時、オリエンテーションにてマニュアル説明を行っている。見直しが行われた場合も職員へ周知している。</p>	<p>入社後、1年以上経過した職員などにも再度周知していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員が段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外の研修に参加できるよう、支援している。養護学校の実習受け入れも行っている。	段階に応じた育成では、その都度の対応になっている。為それぞれの段階に合わせた研修となるよう計画していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	そよ風支社内での利用者交流は随時行っている。市内ケアマネージャー同士の交流は月1回の会議にて行っているが、利用者相互の訪問などは行っていない。	他のグループホームとの交流の機会を作っていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者、計画作成者、ユニットリーダー、サブリーダーと職員とで交流が図られている。	個別の相談に随時対応している。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人内の施設長会議にて新潟北陸支社支社長が統括して各施設の状況を把握している。	月に1回支社単位での会議を行っている。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴の姿勢を持ってコミュニケーションを図っている。	話やすい環境づくりに努めている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問などで会う機会を作っただき、家族側の要望を聞いています。	家族の要望を聞きだし、ケアにつなげて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用が必要と思われる時でも、それに対しての説明や対応をさせていただいている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来ていただいたり、共通の話題をご家族より情報を頂きながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様の知恵や習慣、趣味などを引き出し学ばせていただいている。 レクリエーションに参加し感情の共有を図っている。		本人の得意分野を理解し職員と一緒にいき、時には教えて頂きながら作成している。(棚作り、花壇柵作り、漬物作り、裁縫、笹団子作りなど) 怒の対応を職員間で話あって行きたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中での気づきや癖などもご家族様と話すことで共有でき、それに対してご家族様と共に対応している。		利用者は、ご家族様が来られることを楽しみにしているので対話の時間を多く取るように心がけている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様、本人の思いや状況を見極めながら話を伺ったり、ご本人の状況説明をしながら、より良い関係が築いていけるよう支援している。		ご家族とのもちつき大会、交流会など参加できる機会を設けている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や、馴染みの人にも希望時や機会を選んで接触できるようにしている。		知人や商店等行きつけの場所などとの付き合いを続けられるよう働きかけている。 更に行きたい場所や、馴染みの人との時間を見つけて行きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションや食事の支度の時を中心に他のご利用者様との関わりを深めている。		レクリエーションなどの輪に入らないご入居者様の対応を更に検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談なども随時対応させていただくことを話している。 また、利用者様同士の関係も説明させていただき、行き来させていただいている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし方を把握した上で、今の希望を聞き過ぎや少くなるように努めている。		共同生活の中でご利用者様によって片寄らないように取り組んでいきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話やご家族様との会話の中から把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様との日々の会話、行動、職員間の情報などで総合的に把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で、入居者様の思いや意見を聞き反映させるようにしている。		職員全員で意見交換やモニタリング、ケアカンファレンスを行っている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じての見直しは行っているが、変化が生じた時の計画変更にまではいたっていない。		変化が生じた時は見直しを行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子は個人記録に記入し、各職員が記録を見て情報共有をしている。記録よりモニタリング、課題検討し、介護計画の見直しを行っている。		わかりやすく、見やすい記録の書き方を工夫している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況、要望に応じた対応をしている。		家族の要望に応じた対応をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの協力を呼びかけている。 民生委員も参加できる機会を作っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問の理美容サービスを利用したり、図書館や公民館などにも利用させていただけるよう支援をしている。 必要時ケアマネジャーとも相談調整を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて、地域包括支援センターの職員にも参加いただき、少しずつ周辺情報を頂いたりしながら協力を頂いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族様の希望される主治医の下で治療を受けている。		入居をする時点で家族の希望を伺っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院としては専門医ではないが、市内などの病院や医師と関係を築きながら、相談などをさせていただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医院へ相談させていただいたり、そよ風支社内の看護師より助言を頂いたりしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、毎日状態を把握する為に面会を行ったり、写真や鶴を持って、馴染みの関係を継続できるよう援助している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については、その都度ご家族様へ話をし対応している。		ご家族様、医師と話す機会を多く持つようにしていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入院、退院などでも出来ること、出来ないことを明確にし、主治医などと共にカンファレンスを行い取り組んでいる。		今後の変化に備える意識、準備が不十分な為、検討準備をしていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前面接や情報交換、注意事項、対応方法などを話し合ったり、情報提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけに注意をはらうように努めている。	馴れ合いとなり、言葉遣いが乱雑にならないように注意していきたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	何かを実行する時は、ご入居者様にわかりやすい声かけを意識し自ら決めることが出来るよう、あせらずにじっくり考えていただけるように支援している。	利用者様、自らで決められないことがストレスにならないように、取り組んでいきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に過ごしているが、外出希望が多くすべての外出希望には添えられていない。	外出希望について、職員間でもっと話し合い調整していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族様と協力し合って、ご利用者様が望むように努めている。	利用者様自身が興味を示さない方には、職員で身だしなみを注意していきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いなど会話から把握して楽しみとなるように努めていく。	毎月寿司の日として特別メニューを一緒に作っている。季節や希望に沿って、メニューを変更して作っている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて、支援している。	お正月、夏のバーベキュー大会などイベント時にも確認し提供している。好きな物だけ買い、糖分塩分などが片寄らないようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、必要に応じて時間ごとの誘導や水分調整、運動を促している。		排泄の失敗時の気持ちの落ち込みへの声かけに注意していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせて行っている。 便秘気味や足の浮腫が見られる場合は、軽くマッサージを行っている。		入浴拒否が続くご利用者様は、気持ちよく入浴を楽しめるための対応を検討していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	湯たんぽを使用したりして、暖かく安眠できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	何かやりたい事などを会話の中からみつけ、道具が必要な時は一緒に用意し張り合いを見つけるように努めている。		特に何もしたくないというご利用者様の中にも何か気晴らしを見出すことへの取り組み。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持し使える利用者には希望される事を出来る限り、実行に移せるよう努めている。		お金の管理で混乱した時の対応を検討していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	皆さんの希望を出来るだけ反映できるように、外出方法など調整を行っている。		外出欲求がありすべてに対応できない場合の、対応策を検討していく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出支援では、それぞれに状態によって差があり、自己の主張や欲求が無い方にも支援できるようにしていきたい。		家族と共に外出できる機会を作って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の思いや、ご本人の思いを相談しながら行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	プライバシーに配慮して、居室で気軽に過ごせるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のミーティングなどでケアを振り返り、職員で取り組んでいる。		勉強会などを開催していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけず、センサーを設置したり、出入りに鈴をつけて対応している。		2階から1階へ自由に行き来することが出来るが、死角となり階段やエレベーターで危険が無いように職員が付き添って移動している。 地域にも理解を深め、関係を更に気づいていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中職員3人体制で対応し、全入居者様の所在や状況を把握し、声を掛け合い対応している。		フロア以外での場所の安全確認をどのようにしていくのか検討していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全体的には、注意が必要な物、使用后保管が必要なものなど把握して取り組んでいる。 事故報告書や、ノート等を使用し周知している。 刃物は使用時以外は入居者の手の届かないところに保管している。		個別に持っている物に関しての把握をし、混乱の無いようにしていきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した場合、速やかに事故報告書を作成し、原因と対策を検討し、ご家族への報告を行っている。 また、ユニット会議にて再度検討している。		その都度、予防の為にそのときにあった課題について検討したり学習している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習や避難訓練時に消防署より講習していただいている。 夜勤時、日中時の緊急対応のマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		普通救命講習(年1回)避難訓練(年2回)地域の防災訓練(年1回)だが、もう少し回数増やし、定期的に行って行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議にて地域の防災方法や訓練の流れなど情報を頂き、防災訓練には入居者と共に参加させていただいている。。		運営推進会議にて情報としての交流は出来ているが、協力を得る体制には至っておらず、今後検討話しあって行きたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人ひとりに合った趣味や役割活動をすることによって入居者の生活や表情が明るくなり、それによって行動障害が少なくなること。又は認知症自体の説明や事例、考えられるリスクなど説明し理解を得られるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日にバイタルチェックを2回、排泄チェック表を活用している。 職員全員がいつでも確認、情報共有できるよう努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルで確認し、症状の変化も職員で話し合い、記録を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防として、水分量や排便を促す様な食事を心がけ、歩行により体を動かしていただくなど取り組んでいる。		便秘の及ぼす影響を学習して周知して行きたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後のみ歯磨きの声かけを行っている。		朝夕の歯磨き支援を行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して水分チェック表にて記入。外出後やお風呂上りや発熱のどの状況に応じて対応している。		居室での水分摂取量の把握をしていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル整備されている。 入社時、時期を見ながら再度周知徹底している。		インフルエンザ予防接種は年に1回職員、入居者と共に摂取を受けている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁、コップ、清掃など定期的に消毒を行っている。 食材の購入は冬は3～4日おき、夏は2～3日おきに買い物に出掛け、賞味期限や生ものでも安全に新鮮な内に食べていただけるように、メニューも工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を生けたり、プランターで野菜や花を育てている。 また、玄関外に椅子を置いて気軽に座っていただけるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや、レクリエーション、料理を工夫し五感で感じていただけるように季節感を意識して支援している。		入居者様と一緒にコミュニケーションをとりながら、考え、居心地良く活動できるように工夫している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや廊下に椅子を設置して自由に過ごせる場所を作っている。		一人になれるスペースや仲の良い入居者同士でくつろげるスペースになっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の部屋にあった馴染みの物を持ってきていただくなど、ご家族様にも相談しながら対応している。		定期的に職員と一緒に居室掃除を行っている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日決まった時間に換気をしており、冷暖房は入居者の状態や反応を見ながらこまめに調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差がないように作られているが、ご入居者様によって介助や補助具が必要な方は使用したり、援助したりしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの性格や習慣を把握して自立できるところは、自ら安全に出来るよう見守りを行う。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋外の空きスペースを畑として活用し、季節に応じて芋ほりなど全員で参加できるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)